

今年の東京国際声楽コンクール

本年もまた、六月から九月にかけて東京国際声楽コンクールが盛大に開催されました。計八部門の延べ参加者二九七人。そのうち全国二十か所の予選・東日本と西日本の准本選を勝ち抜いた一二四人が本選に出場して熱演を繰り広げました。

このコンクールは、プロやプロをを目指す方に留まらず、高校・大学生から年齢制限なしのアマチュア歌手まで、声楽の様々な方向・目的・レベルを持つ方々にとつての腕試しの場になることを願い、多様な部門を設けた声楽芸術の総合コンクールを目指しています。今年で四年目。過去の入賞者には内外のオペラで大役を勝ち取るなど、大活躍の始まっている方が数多くおられます。また、主催の東京国際芸術協会が率いる「オペラ劇場あらかわバイロイト」公演にも多くの歌手が抜擢されて経験を積んでいます。その、入選・入賞者たちによる気鋭のオペラガラコンサートが左頁のとおり開催されますので、是非お立ち寄りください。

来年のコンクール要項は1月頃発表されますが、今年の要項・審査結果・統計などはサイトに掲載されています。受験を検討される方は「傾向と対策」の参考にして下さい。なお当コンクールは、予選では審査員全員の講評を書面で配布し、准本選・本選では発表後に審査員と受験者の懇談の場を設けており、大変に好評です。今後とも、声楽に携わる皆さんの活躍するきっかけを提供していきたいと思えます。

(事務局長・田辺とおる)

【東京芸術大学教授・川上洋司先生による審査委員長総評】

今年度は審査委員長として西日本准本選・東日本准本選・本選を審査させて頂きました。初めて西日本准本選を審査致しましたが、全ての部門に於いて参加者のレベルが非常に高く、本当に喜ばしい事ですので特記させて頂きます。

アンサンブル部門は、予選の通過者無しという結果になってしまい、准本選・本選参加者が不在であった事が残念でした。此の部門は、各音楽大学に於きましてアンサンブル及び重唱研究などの授業が充実している昨今、来年度から奮って参加して下さる事を期待いたします。

さて、本選に於いての部門別の感想を簡潔に述べます。
先ず高校生部門では非常に声の素材が良い参加者が多く、将来に期待を持てる人材が揃っておりました。只、昨年度同様、今後音楽大学の声楽科に進学される予定の方々に特に申し上げたいのですが、今の段階でオペラのアリアなど大曲を無理に勉強せず、自身の発声技術を向上させるには何を勉強しなければいけないかを良く考えて受験に備えて頂きたいと思えます。又、音楽の表現力、発音などをもう少し丹念に勉強してほしいと思われる参加者も何人か見受けられました(一位鈴木美郷・二位山崎真礼・三位漆櫻)。

次に大学生部門ですが、本年度は、音程の悪さが目立つ参加者が非常に多かったのが気になりました。これ

は発声技術が不足している事と、レパートリーの選択を間違っていると言う事だと思えます。又、オペラのアリアは、アリアのみをピックアップして勉強するのではなく、必ず、そのアリアがオペラ全曲の中でどの様なシチュエーションで歌われているのかという事を勉強するべきだと思います(一位松浦恵・二位山田花織・三位田坂久紗乃)。

次に本年度より新設された新進声楽家部門ですが、第一位(林佑子)・第二位(清原久理恵)・第三位(香取由衣)は非常にレベルの高い演奏をされていきました。特に、一・二位の御二人は得点が僅差で甲乙付け難い演奏であった為、審査員特別賞を御二人に授与させて頂きました。

一般部門も昨年度に増してレベルが高く、特に第一位(鏡貴之)・第二位(狩野麻実)・第三位(具志史郎)は今後演奏家として大成されるであろうと確信致します。やはり、審査員全員の一致した意見で新進声楽家部門同様、御三人の方々には審査員特別賞を授与させて頂きました。

しかし、この両部門で入賞された方々以外で特に気になった点は、大きな声で如何に高音部まで出すかという事ばかりに囚われて如何に音楽を表現するかという方向に全く目が向いていない参加者が多かったという事で、両部門から世界の音楽界で活躍出来る声楽家が出現してほしいと願う我々審査員には多少気になる傾向ではあります。

次の歌曲部門も本年度より新設され、本選出場者が七名でした。此の

部門では第二位(糺場芳嗣)・第三位(升島唯博)・第四位(新海華子)の実力が拮抗して聴きごたえのある部門でした(第一位該当なし)。歌曲は一曲の中に無限の小宇宙が有り、歌い手の音楽的センスが問われる厳しいカテゴリーであることを改めて感じました。この分野も来年度以降更に充実する事を期待いたします。

オペレッタ部門で第一位(香取由衣)・第二位(升島唯博)・第三位(奥村育子)に入賞された方々は声、演技力共にあり非常に楽しめました。この部門は近年社会的需要も増してきておりますので来年度以降優秀な方々が多数参加されることを期待いたします。

声楽愛好者部門では、参加者の年齢層が幅広くどの年齢層の方々も歌を愛し本当に楽しんでしかも立派に演奏されて居りました(四十歳以下A部門二位高橋みのり・四十歳以上B部門一位木上勲・二位浅田昌彦・三位横山裕美)。

最後に、これは昨年度も申し上げたことですが、今後の本コンクールへの参加予定者も含めて申し上げておきます。

大きな声で如何に高音部まで出すかという事ばかりに囚われず如何に音楽を表現するかという方向に是非目を向けて頂きたいと思えます。良い声で、より大きく、より高く出すのは確かに声楽的快感ではあります。が、それは、音楽を表現する為の必要条件の一つで十分条件では決して無いという事を忘れないで頂きたいと思えます。